

令和4年3月10日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）第2期「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プランにおける幼保小連携・接続の推進について

幼稚園・保育所等での「遊びは学び」の展開は素晴らしい取組だと思うが、小学校に入学した後も、授業中に立ち歩いたり、先生の話を見聞かずに遊び始めたりすることもあると聞いたことがあり、小学校での生活にうまく移行できない子供もいるのではないかと懸念している。

こうした課題に対応していくために、これまでも「幼保小連携・接続」に取り組まれており、第2期プランではこれをさらに強化していくとのことだが、今後どのように取り組んでいこうと考えているのか、教育長に伺う。

（答）

小学校に入学したばかりの子供が落ち着いて学習できないケースについては、園・所等と小学校のギャップに対する児童の戸惑いの現れと認識しております。これまでも、小学校へ入学した全ての子供たちが、安心感を持って新しい学校生活に馴染んでいくことが重要であると考え、幼児教育と小学校教育を円滑に接続するカリキュラムの作成支援に取り組んでまいりました。

これにより、子供たちが少しずつ小学校の授業に慣れていけるよう、弾力的な時間割の設定を行ったり、学習内容に幼児期の「遊び」の要素を取り入れるといった取組が県内全ての小学校で展開されております。

一方で、小学校教員の園・所等で子供の状況等についての理解が、必ずしも十分ではないという課題があると認識しております。

そのため、第2期プランにおきましては、一人一人の子供が、それぞれの育ちや特性に応じて学校生活に円滑に移行していけるよう、小学校の教員等が校区内の園・所等で保育参観や情報交換を定期的を実施するなど、小学校と園・所等で丁寧な子供の情報の共有に取り組んでまいります。

併せて、「遊びは学び」という乳幼児期の教育・保育の理念が小学校においても共感的に理解され、子供たちがそれぞれの関心や経験、育ちの状況に応じて主体的に参加できる授業が展開されるよう、小学校の全ての初任者を対象に、園・所等での保育を体験する研修を実施するなど、新たな取組にも着手してまいります。